

氏名	河田 敦子 KAWATA Atsuko
所属 職名	人間発達教育研究センター 特任アソシエイトフェロー
学位	博士（社会科学）
専門分野	教育史、教育行政史、教育制度史、女子教育史
URL	
E-mail	kawata.atsuko@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

教育史
教育行政史
教育制度史
幕末明治期の女子教育史

educational history
history of educational administration of Japan
history of educational system of Modern Japan
history of women's education from Edo to Meiji

主要業績

【著書】 2011年1月『近代日本地方教育行政制度の形成過程—教育制度と地方制度の構造的連関』風間書房

【論文】 2011 March Atsuko KAWATA and Tokio KATO "Life History of naito Masu: A Female Pioneer of Women's Education in yamanashi Prefecture in the Early Meiji Period" PROCEEDINGS 13 Global COE Program "Science of Human Development for Restructuring the 'Gap-Widening Society'" Ochanomizu University

【学会発表】 日本教育学会第69回大会（於広島大学）2010年8月22日 河田敦子・加藤時男「幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程」

【科研費の取得】 著書『近代日本地方教育行政制度の形成過程』（2007年度お茶の水女子大学博士論文）出版のため、2010年度学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進経費・学術図書）を取得。」

【科研費の申請】 平成23年度科学研究費補助金基盤研究（C）に「近代日本地方教育行政制度形成期における森有礼と山県有朋」というテーマで応募した。2011年5月に内定の通知を受けている。

研究内容 / Research Pursuits

著書『近代日本地方教育行政制度の形成過程』では、近現代日本の権力構造を地方教育行政制度の観点から解明している。本研究は、1880年代にそれぞれ3?4度改正された教育制度と地方制度の両者によって形成された地方教育行政上の権力構造を、制度内容・町村における実態・制度成立過程の3つの観点から分析検討している。本研究の結果、1884年より内務卿、1885年より内務大臣の地位にあった山県有朋が地方教育行政において中央集権的で住民自治を抑止する権力構造を制度改正により構築していたことを明らかにした。

英文論文"Life History of Naito Masu"では、昨年刊行した『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』の研究内容を深めた。具体的には、近世女性旅日記を研究する会に入会し、先行研究や現段階におけるこの分野の研究進捗状況を学び、本論文に反映させた。また、内藤ますの執筆した旅日記の執筆年について、国学院大学中澤博士より指摘をいただき、前研究における「1865年ごろ」から「1867年」に修正した。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

本学の授業担当【グローバルCOE人間発達科学論?】の1コマを担当。5月18日に講義を予定。授業のテーマは、「幕末明治期におけるジェンダー構造の変動と女性の人間形成」である。幕末から明治期にかけて女性の教育制度が大きく変動する中で、実際にどのように女性が教養を形成してきたかについての研究は少ない。本講義では、近世における女性の旅日記や女性が執筆した教訓書に関する研究に筆者の『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程―「駿河紀行」全文翻刻付―』（加藤時男との共同研究）および「宮城県M郡K町における『姉家督』について」等の研究を加えて幕末明治期の女性の人間形成について考察する。

■ 研究計画

■ メッセージ